

問1 日本の農産物貿易において、特定の国との関係や自給率の課題について述べた文として、正しい仕組みを説明しているものはどれですか。

(2025年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 飼料用穀物などの自給率が低いため、広大な耕地を持つアメリカ合衆国からの輸入割合が高く、国際情勢の影響を受けやすい構造になっている。 | 2. 食料自給率を高めるという目標を達成したため、現在はアメリカ合衆国からの農産物の輸入割合はほぼゼロになっている。 | 3. 日本は主食である米の自給率が極めて低いため、その不足分をアメリカ合衆国からの輸入で補っている。 | 4. 日本の農業は大規模化が進んでいるため、アメリカ合衆国へ農産物を輸出する割合が輸入を上回っている。 |
|--|--|--|---|

問2 農林漁業者が、自ら生産した農作物などの「第一次産業」に加え、食品加工などの「第二次産業」、さらには流通・販売などの「第三次産業」までを一体的に行う取り組みがあります。これらの産業の数字を掛け合わせた名称で呼ばれる、農村の所得向上を目指した取り組みを何といいますか。

(2022年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|---------|---------|-----------|
| 1. 六次産業化 | 2. 地産地消 | 3. 近郊農業 | 4. スマート農業 |
|----------|---------|---------|-----------|

問3 少子高齢化が進む日本の社会において、地域の将来像を予測するための重要な指標に「高齢化率」があります。この高齢化率の定義として正しいものを選択してください。

(2023年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------|----------------------------|------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 総人口に占める、将来の労働力となる十四歳以下の人口の割合 | 2. 総人口に占める、六十五歳以上の人口が占める割合 | 3. 全世帯数に占める、高齢者のみで構成される世帯の割合 | 4. 総人口に占める、義務教育を終えた十五歳から六十四歳までの人口の割合 |
|---------------------------------|----------------------------|------------------------------|--------------------------------------|

問4 1960年ごろの日本の輸入は原綿などの原料が中心でしたが、2020年には「機械類」の輸入割合が約27%にまで高まっています。このように、日本が製品である機械類を多く輸入するようになった背景として、最も適切な説明はどれですか。

(2022年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 食料自給率が100%に達したことで、それまで食料輸入に充てていた費用をすべて機械の購入に回したため | 2. 日本企業の生産拠点が海外へ移転し、現地で製造された製品や部品を日本へ送る「製品輸入」が増えたため | 3. 1960年代から続く繊維工業のさらなる発展により、世界中から紡績用の大型機械を買い集めているため | 4. 国内の石炭や石油などのエネルギー資源が豊富に採掘されるようになり、燃料の輸入が不要になったため |
|--|---|---|--|

問5 日本の輸入総額における地域別の割合において、1960年には約30.5パーセントを占めていたものの、2000年には15.1パーセント、2019年には12.6パーセントと、段階的にその割合が縮小している地域はどこか。

(2022年 鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|---------|
| 1. 中南アメリカ州 | 2. オセアニア州 | 3. 北アメリカ州 | 4. アジア州 |
|------------|-----------|-----------|---------|

問6 日本の石油化学コンビナートが、主に太平洋沿岸の臨海部に立地している理由を、日本の資源事情と関連付けて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。

(2026年 栃木県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 国内の産油地からパイプラインで運ぶよりも、内陸鉄道を利用して製品を運ぶコストが安い。 | 2. 冷却水として大量の海水を必要とする一方で、原料自体は内陸の山岳地帯から運ばれるため。 | 3. 原油自給率が極めて低く輸入に頼るため、大型船での原料搬入や製品出荷に有利な場所に集まった。 | 4. 1950年代以降、自給率が向上したことで、原料を供給する国内産地との連携を重視したため。 |
|---|---|--|---|

問7 現代日本の産業と貿易に関して、1990年と2015年の技術貿易額の推移を説明した文として正しいものを次から選びなさい。

類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 1990年と2015年を比較すると、技術の輸入額は減少しており、国内での技術開発が全く行われなくなったことを示している。 | 2. 2015年の技術貿易における輸出額は約3兆9000億円に達し、1990年の輸出額(約3400億円)と比較して10倍以上に増加している。 | 3. 1990年から2015年にかけて、技術の輸出額は一貫して増加しているが、輸入額もそれを上回るペースで増加し続けている。 | 4. 日本の技術貿易はアジア諸国からの輸入に依存しており、北アメリカからの輸入額を大幅に上回るのが特徴である。 |
|---|--|--|---|

問8 日本の食料問題に関連して、主要な農作物の供給状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。

(2018年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 大豆の自給率は約7%と低いが、これは国内での消費量が急激に減少したことが主な原因である。 | 2. 米は国内消費量の大部分を生産しており、自給率は100%に近い水準にある。 | 3. 野菜類は鮮度が重視されるため、大豆や小麦に比べて自給率が極めて低くなっている。 | 4. 大豆は北海道などで大規模な生産が行われているため、自給率は50%を超えている。 |
|---|---|--|--|

問9 各国の経済指標と訪日外客数の推移を分析した資料によると、国民総所得(GNI)の伸びが約30パーセント程度であるのに対し、日本を訪れる旅行者数の伸びが約250パーセントと非常に大きくなっている国が見られます。この国に該当するものとして、資料の傾向を正しく説明しているものを選びなさい。

(2016年 広島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|---|---|--|
| 1. タイ：所得の伸びに比べて、訪日旅行者数の伸びが突出して高い | 2. 中国：国民総所得の伸びがアジアの中で最大であり、訪日旅行者数もそれに比例している | 3. マレーシア：国民総所得と訪日旅行者数の両方が、低い水準で安定して推移している | 4. 韓国：国民総所得の伸びに反比例して、訪日旅行者数が大幅な減少傾向にある |
|----------------------------------|---|---|--|

問10 ある作物の収穫量の割合において、北海道が77.1%という圧倒的なシェアを占めており、次いで鹿児島県、長崎県が上位に入っている作物はどれですか。

(2021年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|----------|--------|------|
| 1. ばれいしょ | 2. さとうきび | 3. りんご | 4. 米 |
|----------|----------|--------|------|

問11 日本の貿易において、海上輸送と航空輸送は品目の特性に合わせて使い分けられています。それぞれの輸送手段の特色について述べた文として、最も適切なものを次の中から選んでください。

(2021年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 海上輸送は、自動車などの重量のある製品や石油などの鉱産資源の大量輸送に適しており、航空輸送は通信機や医薬品などの軽量で付加価値の高い品目の輸送に適している。 | 2. 海上輸送は、生鮮食品や医薬品などの鮮度が重視される品目の輸送に特化しており、航空輸送は鉄鋼や液化ガスなどの工業原料の輸送に特化している。 | 3. 海上輸送は、航空輸送と比較して輸送費用が高いため高級品のみを扱い、航空輸送は輸送費用が安いので重量のある資源を主に扱う。 | 4. 海上輸送は、通信機や電子部品などの軽量の精密機器を短時間で運ぶのに適しており、航空輸送は自動車や原油などの重量物を一度に大量に運ぶのに適している。 |
|---|---|---|--|

問12 近年、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を抑えるため、貨物の輸送手段を従来のトラックから、一度に大量の輸送が可能で環境負荷の低い船舶や鉄道へと転換する取り組みが行われています。この取り組みを何といいますか。

(2020年 愛媛県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|-----------|--------------|--------------|
| 1. モーダルシフト | 2. バリアフリー | 3. ロードプライシング | 4. パークアンドライド |
|------------|-----------|--------------|--------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 飼料用穀物などの自給率が低い ため、広大な耕地を持つアメリカ合衆国からの輸入割合が高く、国際情勢の影響を受けやすい構造になっている。	日本の農業は土地面積の制約などから、畜産業に不可欠な飼料用とうもろこしなどの穀物を大量に生産することが難しく、自給率が極めて低い状態です。そのため、世界最大の農業国の一つであるアメリカ合衆国からの輸入に大きく依存しています。このように特定の国からの輸入割合が高い状態は、相手国の不作や輸出制限、国際的な価格高騰が日本の食卓や畜産業に直接的な影響を及ぼしやすい ため、食料安全保障上の重要な課題 となっています。
問2	答え 1 六次産業化	第一次・第二次・第三次の各産業を掛け合わせる（1×2×3＝6）という意味から名付けられました。単に農作物を出荷するだけでなく、自ら加工や販売までを手がけることで、生産者自身の利益を増やし、地域の雇用を生み出すことが期待されています。
問3	答え 2 総人口に占める、六十五歳以上の人口が占める割合	高齢化率は、総人口の中に占める六十五歳以上の人口の割合を指します。日本では少子化と高齢化が同時に進行しており、人口構成の変化が社会保障制度の維持や労働力不足などの深刻な課題に直結しているため、地理や公民の分野で非常に重視される指標です。
問4	答え 2 日本企業の生産拠点が海外へ移転し、現地で製造された製品や部品を日本へ送る「製品輸入」が増えたため	日本の産業構造の変化や円高の影響により、多くの日本企業が工場を海外（特にアジア諸国）へ移転させました。その結果、海外の工場で組み立てられたスマートフォンやパソコンなどの製品、あるいはそれらに組み込まれる電子部品を日本が買い戻す「製品輸入」の形が定着しました。これにより、輸入項目における機械類の割合が大幅に上昇しました。
問5	答え 3 北アメリカ州	日本の輸入相手地域別の統計を見ると、北アメリカ州の占める割合は1960年の約3割から、2019年には約1割強へと大きく減少しています。これは日本にとっての貿易相手が多角化したことや、地理的に近いアジア地域との経済的結びつきが強まったことを示しています。選択肢の中で、この期間に一貫して割合が縮小しているのは北アメリカ州です。
問6	答え 3 原油自給率が極めて低く輸入に頼るため、大型船での原料搬入や製品出荷に有利な場所に集まった。	日本の原油自給率は、高度経済成長期前の1950年代後半でも2%程度と低く、2018年には0.3%まで低下しています。このように原料のほぼ全量を海外に頼る状況では、生産コストを抑えるために、輸入した原料をその場で加工し、すぐに製品として積み出せる臨海部が最も効率的な立地条件となります。
問7	答え 2 2015年の技術貿易における輸出額は約3兆9000億円に達し、1990年の輸出額（約3400億円）と比較して10倍以上に増加している。	統計データによると、日本の技術貿易の輸出額は1990年の3394億円から、2015年には39498億円へと飛躍的に伸びており、約11.6倍の成長を見せています。一方で輸入額も3719億円から6026億円へと増加していますが、輸出額の伸びがそれをはるかに上回っているため、日本の技術貿易収支は大幅な黒字へと転換しました。輸入相手国については北アメリカなどの先進国が大きな割合を占める傾向があります。
問8	答え 2 米は国内消費量の大部分を生産しており、自給率は100%に近い水準にある。	日本の食料自給率において、主食である米は国内生産でほぼ賄われています。一方、大豆は供給量の大部分（2013年の統計では供給総量約3,000千トンのうち約2,700千トン以上）を輸入に頼っており、自給率は約7%です。野菜は輸送距離や鮮度の関係から比較的自給率が高い傾向にありますが、大豆のような土地利用型作物は、アメリカやブラジルなどの大規模農場との価格競争もあり、自給率が低迷しています。
問9	答え 1 タイ：所得の伸びに比べて、訪日旅行者数の伸びが突出して高い	国民の所得水準の向上は海外旅行者数の増加に繋がる一般的な要因ですが、国によっては所得の伸び以上に旅行者数が急増するケースがあります。タイはその代表例であり、ビザの発給要件の緩和や日本文化への関心の高まりなど、経済規模の拡大以外の要因が訪日旅行者数の爆発的な増加（約250%）に寄与していることが読み取れます。
問10	答え 1 ばれいしょ	日本のばれいしょ（じゃがいも）は、冷涼な気候を好み、広大な土地で大規模な機械化栽培ができる北海道が全国シェアの約4分の3以上を占めています。2位の鹿児島県や3位の長崎県では、温暖な気候を活かして春先に収穫される「新じゃがいも」の栽培が盛んです。
問11	答え 1 海上輸送は、自動車などの重量のある製品や石油などの鉱産資源の大量輸送に適しており、航空輸送は通信機や医薬品などの軽量で付加価値の高い品目の輸送に適している。	日本の貿易では、輸送効率や品目の性質によって手段が異なります。横浜港などの貿易港で行われる海上輸送は、自動車のような重量物や、石油・液化ガスといった体積が大きく大量の運搬が必要な資源の輸送を担っています。これに対し、成田空港などの空港で行われる航空輸送は、通信機、医薬品、電子部品、貴金属といった、重量が軽く、かつ価格が高い（付加価値が高い）品目を、速さを重視して運ぶ際に利用されます。
問12	答え 1 モーダルシフト	トラックによる輸送は、目的地まで直接荷物を運べる利便性がある一方で、輸送量あたりの二酸化炭素排出量が多いという課題があります。地球環境への負荷を減らすことを目的として、幹線道路の渋滞緩和や排出ガス削減のために、輸送手段を船舶や鉄道に切り替えることをモーダルシフトと呼びます。